

# 満座御礼

2004年11月28日(日)

三寶寺報恩講



# 願生



2005年1月1日

明けまして

おめでとうございます



## 新潟中越地震詩文

### 戦争体験者

苦勞も又修行であると、あけない夜はないと信じ、互いに助けあってこれたから、幾度も家も財産も焼き、なくしました。けれど今の八十八歳の私がいま

きました。「子はなくものだ。出かける時、袋に何か入れていくものだ」母の声を思い出しました。袋から米粒を長男の口に入れたら涙き止んでクレタアア、人様に迷惑かけず、皆様のいのち守れた日思い出し、無意識に体育館で、涙く子にいただいたオニギリの米粒を口に入れていました 八十八歳・女性

の山はさげすに残れり。人々のいのちは助かり、村人達は岩清水に故人の名前をつけて感謝の意をあらわした 正月 この身は傾いた家に今います。皆様のおかげでガンバレました 新しい年を迎えられますので、貴方にも正月を招いたモチを今おくれた 八十八歳・女性とその息子 春

この身は死んでもこわくない。でも三回目の揺れの時、はいだしました。ガレキ(瓦礫)の中からシカバネを引き出してもらうと、皆様に迷惑をかけてしまうから 七十三歳・男性

避難所で この身は涙く子に、オニギリとどけます 敵地で涙く子を殺せと命じられ、何人ががせまって 八十一年後の地震では、飲み水として使われ、雑木林

この身は今住んでいる家を春にこわす。夫婦で作った家をこわすのです 皆様の援助によってうつわにあった、この身にあなた家を作るのです 皆様に叶す葉書にお立ち寄りくださいと出します 八十四歳の男性

凡夫は、「命」の世界にのみあつて

喜怒哀楽の生活を営む

如来の心は命をつつんだ、寿の中にあつて

無上安穩涅槃の世界に住む

釈尊はその両面を説きながら真実の世界に止揚して(持ち続けながら)語る

“命を捨てて寿に住す”

三歸依文

人身受け難し、

仏法聞き難し、

いますでに聞く

## 三寶寺掲示板 一月

生きていて  
よかった  
生まれた意義を

如来は  
説き続ける